

陸軍ニュース：ロシア軍の” 東方-18” 戦略演習と中国軍

漢和防務評論 20190107(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

昨年9月、ロシアのシベリアと極東地区で、ロシア軍の大規模演習”東方-18”が行われました。

この演習に中国軍の部隊が初めて招請され、演習に参加しました。

米露、米中間の緊張に伴って、当然の成り行きになったものと思いますが、双方とも完全には心を許していない間柄は続いており、今後の世界情勢はどのように推移するか目が離せません。

平可夫モスクワ

2018年9月、ロシア軍は、冷戦後最大規模の” 東方-18” 戦略演習を行った。演習の目的は、” 戦略を演練” するとされた。類似の演習としては、1981年に” 西方-81” が行われている。” 戦略演習” とは、通常、想定の見込み、目的の多様性、脅威に対する先見性を指す。

参加部隊は核を含む戦略兵器部隊である。演習では、初めて中国軍を招請した。この招請の目的は、聯合演習を行うためではなかった。

演習は、当然” 戦闘” を含むものであるが、従来の” 対テロ” を目的とした演習とは異なっている。これは、表面上、中露の政治的関係、軍事協力関係の大幅なレベルアップを意味する。通常この種の演習は同盟国のみが招請されるものである。

中国側の参加部隊及び装備から見ると、出動したのは、1個合成旅団内の少なくとも3個合成連隊であった。現在、中国軍は、師団を旅団に改編したあと、第二次陸軍改革として、主として合成旅団、合成連隊を編組する方向に向かっている。

演習は、9月11日から15日の間、シベリアと極東地区で行われた。ロシア軍の演習参加人員は30万名を超え、装備は、戦車、装甲輸送車等、車両3.6万両、及び各種航空機1000余機であった。

参加部隊は、ロシア中部軍区、東部軍区及び太平洋艦隊、北方艦隊並びに空挺部隊であった。演習期間、一部の演習項目には中国と蒙古の軍隊が参加する項目があった。

見るところ、演習名称が” 東方-18” と称してはいるものの、実際上の参加部隊はロシア全軍の各種部隊から参加し、迅速な展開、移動能力が展示された。過去の” 東方” 演習もこのように行われてきた。

基本的にすべての主戦装備部隊が今回の演習に参加した。TU-160 戦略爆撃機の姿が見えなかったほかは、TU-95MS と TU-22、SU-24M、SU-27、SU-30SM、SU-34、SU-35 の作戦機、MI-24、MI-8 及び MI-26、KA-52 武装ヘリ、IL-76

輸送機、A-50 早期警戒管制機及び各種タイプの無人機が演習に参加した。この他、陸軍の T-72B3 主力戦車、TOS 装甲車、2S19 自走榴弾砲、SMERCH ロケット砲、Tor-M-M2 及び BK-M2 防空ミサイルが演習に参加した。現在 T-72 主力戦車は逐次 B3 の水準に逐次改修しつつある。

当然新時代の T-14 主力戦車、T-15 歩兵戦闘車は、ロシア陸軍が今年（2018 年）8 月になってから購入したので出現しなかった。

中国側の参加人員は 3200 名、各種装備車両は、1000 両あまり、固定翼とヘリが 30 機であった。固定翼機はテレビには映っていなかった。

中国軍人の輸送は、8 月 16 日の最初の列車輸送から始まり、8 月 29 日の最後の空中輸送完了まで、14 日間かかった。中国軍は、全部で 28 個の列車輸送梯隊編成及び 3 個の空中輸送ミッションを行って輸送任務を完了した。

演習は、主として、抗敵進攻、強渡水障（敵前渡河作戦）、火力突撃、進攻準備、転入進攻等を演練し、不慣れな環境下での実戦能力に着眼して検閲した。

写真上では、Z-9、Z-19 ヘリ、T-99 主力戦車（番号上から見ると 4 個連隊で未充足の可能性もある）、07、86 歩兵戦闘車、122 ミリ装輪自走砲、122 ミリのモジュール化多連装ロケット砲、100 ミリ、122 ミリ、30 ミリ砲、8×8 装輪自走砲が演習に参加した。

演習時の写真を見ると、中国陸軍は、近年来、合成旅団、合成連隊を編組する構想があり、主要な陸軍兵器は、基本的に、特に火砲は 2 種類の形式を開発している：1 種は装輪駆動であり、他は大型の履带式駆動であり、軽型合成連隊と重型合成連隊を編組している。現在、部隊の移動速度と機動の迅速さを重視している。

8 月に行われた上海協力機構の対テロ聯合演習では、中国側が出動させた兵力に注目しなければならない。”東方-18”に参加した部隊に比べ、さらに合成の度合いを重視している。

対テロ聯合演習”和平使命-2018”に参加した中国軍の攻撃機は、8 月 20 日、チェラビンスク州の軍用飛行場に展開した。航空機群には、J-11 多用途攻撃機が 2 機、JH-7 戦闘爆撃機が 4 機、Y-9 多用途輸送機が 6 機、MI-171 多用途ヘリが 4 機、WZ-10 武装ヘリが 4 機、IL-76 輸送機が 2 機含まれていた。

上海協力機構の構成国は、2 年毎に”和平使命”対テロ軍事演習を行っている。”和平使命-2018” 聯合軍事演習には、中国、ロシア、カザフスタン、タジキスタン、キルギスタン、インド、パキスタンが参加し、ウズベキスタンは 10 名のオブザーバーを派遣した。この演習は、インドとパキスタンが参加メンバーとして参加した初めての聯合軍事演習かもしれない。”和平使命-2018”への中国側の参加人員は 700 余名で、1 個陸軍装甲戦車戦闘群、1 個空軍戦闘群、1 個特種作戦分隊が含まれる。

”東方-18”演習中、3 個合成連隊が 14 日間かかって機動したが、ロシア側の統制を受けたり行動に制約を受けたりしたのでなければ、この機動速度は十分とは言えない。この理由は、中国軍が主として鉄道輸送に依存し、長距離戦略空

輸能力が不足しているからである。しかし Y-20 輸送機が部隊配備されるにしたがって、今後国外への部隊展開の速度は、より高まるであろう。

装備面から見ると、今回演習に参加した中国軍の各種装備は、技術面で優れているとは言えなかった。99 式主力戦車は、新型であるが照準装置は改良された T-72B3 と基本的に同じである。防護能力、機動性は T-80U 及び T-72 よりも良好かもしれない。しかしロシアは T-14 を配備しようとしている。これは次世代の主力戦車である。

ロシア軍は、大型ヘリ、各種戦術航空機等の領域で依然として技術面の優勢を維持している。空軍の SU-35 は、中国空軍の如何なる第四世代戦闘機よりも優れている。

中国の 86 及び 07 型歩兵戦闘車については、ロシア軍は極めて詳しい。

ロシア軍は、すでに BMP-1 歩兵戦闘車を淘汰した。後者は 86 型のモデルになった戦闘車である。07 型の火器管制系統は BMP-3 でありロシアから技術移転を受けた。中国は、次世代の VN-17 大型歩兵戦闘車の生産を開始した。

ロシア軍は今年（2018 年）次世代の装輪式、履带式歩兵戦闘車を購入した。現在装備しているロシア式 8×8 装輪装甲車、戦闘車は主として BTR-80 及び改良型の 82A（30 ミリ砲）であり、極めて実用的である。

ロシア軍のすべての主戦装備は実戦でのテストを経ている。しかし中国軍の装備はそうではない。

冷戦時代或いは 1990 年代に比べると、中露両国の陸軍の普通装備、装甲武器は品質上の差が縮小した。これは事実である。

しかし戦闘経験の面から見ると、ロシア軍は相当豊富である。1950 年代から、10 年毎にソ連軍は戦っている。

冷戦後も今年（2018 年）まで、ロシア軍はほぼ 10 年毎に戦役級の戦争に参加している。

2004 年から、第二次チェチェン戦争、グルジア戦争、ウクライナ東部戦争、シリア戦争があった。しかし中国は、40 年近く、戦っていない。

したがって中国軍人は実戦経験に乏しい。今回の演習で 3 個合成連隊の地上防空部隊は不在であった。防空を考慮しない装甲部隊は航空機の標的になるだけだ。

当然、演習の目的には政治的側面がある。KDR は何度も説明したが、ロシア軍内部、高級軍人はエリツイン時代全期、プーチン時代の前期、表面上は中国に対し友好的であったが実際上は極めて中国を警戒していた。

2008 年以降、この種の状況が激変した。米露、米中関係の悪化にともなって、中露は政治的に接近せざるを得なくなった。

多くのロシア軍人は：現在の政治的関係から、中国はロシアに友好的であると考えている、と述べた。

このような認識に基づいて、プーチンは今回の演習を極めて重視していた。彼

の政治的な発言は次のとおり：

1. NATO 及び米国に対し、戦略的に対抗するため、必要ならば、ロシアは中国の軍事的存在を排除しない。
2. 中国軍人を演習に招請し、中国軍の近年の装備、作戦戦力を把握する。警戒心は依然として持っている。したがって今回の演習を中露の軍事同盟の開始と考える必要はないし、それは不可能である。
3. 今後、日米のこの地域における対弾道ミサイルシステムの配備問題、米国の極東における軍事力強化問題及び北朝鮮の核破棄問題に対しては、中露は同じ政治的、外交的対応を採るであろう。
4. 中露間には、現在それぞれの領域において明らかな摩擦はない。

中国には、中国の戦略目的がある。今年（2018年）になって米中関係が悪化し、ポスト冷戦時代で最も危険な時期に突入した。米中貿易戦争はますます両国関係を疎遠にし、副大統領の対華演説は、新たな”十字軍の東征”の開始を意味し、真に”文明の衝突”が始まったことを意味した。米国は、今後、中国全体を抑制する。貿易戦だけでなく、あらゆる領域で抑制活動を開始する。台湾、南シナ海、東シナ海、技術、金融、外交、一帯一路等々の領域で中国に対する抑制が強まる。

一旦貿易面で収拾がつかなくなると、米中は上述問題で小規模衝突を起こす可能性がある。過去の如何なる時期に比べても可能性は高い。この状況下で、北京は、モスクワの政治力、外交力を必要としている。

このほか、中国軍は、ロシア軍の作戦経験の学習を希望している。今後このような聯合演習は大幅に増加すると思われる。

以上